

研修（納骨参拝）旅行



「日の丸」の小旗



町内のどの家にも「日の丸」の小旗が一本ずつ配られてきました。幼稚園から孫もやはり「日の丸」の小旗をちらつかえってきました。

五月二三日、天皇ご夫妻が、この地で行われた全国植樹祭のお帰りに、この町に新しく建たホテルにお泊になる。そのお出迎えとお見送りのため、町民も学校の生徒も、この「日の丸」の旗をもって送迎もうせということです。

「自治会」ことに人数が割り当たられました。わたしにも依頼がありました。
しかし私は、なんということともなく、お念佛を称ええ、「晩かんがえました。結果どうと
うお断りすることに決めました。
べつにこの天皇さまに恨みがあるわけではあ
りません。
ここまでは、つっこみの一生の本領から、どうも

このような仰々しい天皇送迎のありかたに、いたたまれない反感と不安を押さえることができなかつたのです。

と申しますのは、つい先日、五円のはじめに、あの戦争で死んだ父と兄の五十回忌の法事を勤めたばかりでありました。その矢先に日の丸の旗が配られて來たのです。

この日の丸の旗を振つて父と兄を戦争に送り出した日のことを、ありありと思い出してしまつたのです。

この日の丸の旗を振って父と兄を戦争に送り出した日のことや、ありありと思い出してしまったのです。

父のときは、今は「き母に手を引かれて、元のときは小学校の友達といつしょに。町の小さな停車場（駅）にまで送りに行きました。これは偶然なことではあります、父と兄とを送った町の小さな停車場の跡地に、いま真新しいお泊まりのホテルが建つたのです。当時幼かったわたしの目にも、あの駅頭で父

いております。
父と兄が、日の丸の小旗の波の中を、手を振りながら汽車で消えて行った、その同じ場所に、どうして日の丸の旗を振りにいけるでしょうか。

わたしと同じつらい戦争体験を背負って生きて来た人も多いはずです。その人たちに日の丸の旗を配り送迎を押し付けるとは、どういうことでしようか。親や夫を死に送り出した同じ場所で、日の丸を振れとだれが言っているのでしょうか。すがた正体の見えない恐ろしい魔物がまたわたしたちをどちらかの方向に駆り立てているよう思います。

長いあいだ日照が続きましたが、漸く六月半ばごろより梅雨らしい日がやつて参りました。会員のみなさまいかがお過ごしでございましょうか。さて、平成六年度に入り、去る二月一三日の評議員会で新役員としてご推薦をいただきました。

思いもかけぬ大役をお受けすることになりましたが、なにしろ何も分かりません。ご住職さまはじめ先輩の方々に教わ

思ひもかけぬ大役をお受けすることになりましたが、なにしろ何も分かりません。ご住職さまはじめ先輩の方々に教わりながら、わたしはこれまで通りにおみのりを聞かせていただき如来さまのお慈悲を喜びたくぞんじております。

九日の総会にはこぞつてお参りくださいませ。共々にご法話にお会いし、また併せて、日ごろお励みの作品の展示会にご参加いただきますようご案内を兼ねてお願い申し上げます。

新規員会主の御顕
☆新入会員（お嫁に来られた方、転入さ
れてきたかた）の氏名を報告ください。
また総会出席（平服にて）をお願いくだ
さい。
☆作品展示物は七日午前中に搬入くださ
い。



第兵庫期教区

7

終連

了研

~~者~~

大

三

『連研』終了者

出石組では昨年9月に終った第八期『出石組』の、兵庫教区修了者大会が京都本願寺会館で三日開催される。出石六時半出発の団体バスで勝林寺から住職と坂本克美・斎藤きく枝・田村しめの・浜美知代の各氏が参加される。